



2007年2月5日掲載

親子三代伊豆紀行 / 土肥編

今月の「つれづれWEB」は、私の親、私夫婦、そして我が息子の親子三代で行った伊豆旅行の様様をお送りしよう。

今回の宿は、2003年1月にお送りした「[西伊豆紀行](#)」と同じ西伊豆・松崎の宿。しかし、昨年秋に全面改築オープンし、立派な建物になったという。

そんな情報を親から聞き、親子三代での旅行を決定。しかも、今回の宿代や運転はすべて親持ちなので、いろんな面で楽ちんな旅行となるのだ。

土曜日の朝5時、自宅を出発。実家に5時半の集合である。

こんな早朝の集合なのには、わけがある。朝6時までに高速に乗れば、ETCの割引により高速料金が半額になるのだ。

しかも、対象となるのは東名高速であれば東京IC 裾野ICの間。西伊豆の入口となる沼津ICの1つ手前である。

でも、裾野ICから沼津までは10kmほど。早朝ということもあり、時間調整をかねてこの区間は一般道である246経由となる。

7時半に沼津のファミレスに着き、朝食。我が息子は、朝っぱらからアイスを食べる。

8時に沼津を発ち、国道136号線で修善寺へ。この地域は、先ごろの「平成の大合併」により、「伊豆の国市」や「伊豆市」という名前に変わってしまった。

「伊豆長岡」「大仁」「修善寺」ならピンと来るが、「伊豆の国市」や「伊豆市」と言われても皆目見当もつかない。いろんなものをぶっ壊した前政権は、地名までもぶっ壊したようだ。

修善寺にさしかかって、衝撃的なものを目の当たりにした。「[西伊豆紀行](#)」や「[新春伊豆紀行](#)」（2002年1月掲載）にも登場したうどん屋が、何と閉店してしまったのだ！

修善寺に通りがかると毎回訪れ、半ば定宿化したうどん屋の入口には、でかでかと「閉店しました」の文字が。次に修善寺で食事するときには、別の店を開拓しなくてはならない。

修善寺から船原トンネルを抜け、トンネルそばのドライブインで休憩。その後、駿河湾の街、土肥（とい）に到着した。

土肥も、今や「伊豆市」。道の案内標識も「土肥 km」が「土肥温泉 km」に書き換えられているのだ。

土肥では、土肥金山に入る。ここでも、我が息子はアイスを食らっていた。

坑道に入ると、我が息子は採掘の様子を再現した人形が怖い様子。人形を見るたびにおびえていたのだ。

展示室には、世界一の大きさという金塊が。2002年末に訪れた段階で2億3000万円だったが、今では金相場の上昇で6億7425万円なのだ！



よく考えたら、「西伊豆紀行」でも似たような写真を掲載した。でも、当時と展示方法が

若干変わったのにお気づきだろう。

4年で金相場も3倍に上昇し、当時はアクリル板に書いてあった値段とのズレが生じ、貴金属店と同じような表示方法に変わった模様。前回訪れたときに、販売コーナーで売っていた金の地金を買っておけばよかったと後悔してみる。

販売コーナーでは、おみやげとしてカステラを購入。庭に出ると、2月になったばかりだというのに、早くも桜が咲いていた。



「土肥桜」という桜で、早咲きの桜らしい。早咲きにしても、こんな時期に桜を見れるなんて、暖冬の影響とも思ってしまう。

土肥をあとにし、松崎に向かう。この続きは[こちら](#)をご覧ください。

[\[トップページ\]](#)



2007年2月11日掲載

親子三代伊豆紀行 / 石廊崎 & 松崎編

今月の「つれづれWEB」は「親子三代伊豆紀行」と題してお送りしているが、今回は2回目。1回目は[こちら](#)をご覧ください。

土肥を出発し、駿河湾沿いの国道136号線を南下。松崎に向かう。

恋人岬に行こうと思ったが、我が息子が寝てしまったのだ。この日は5時前に起こされ、これまで一睡もしていなかったので、無理もない。

ただでさえ眠いと機嫌が悪くなる我が息子に気遣い、恋人岬は通過する。

堂ヶ島を通り、今回の宿のある松崎に到着。宿は2003年1月の「[西伊豆紀行](#)」に登場したが、昨年にリニューアルした。

その様子を見に、宿の前を通る。チェックインにまだ時間があるので、素通りする。

今まではかなり年季の入った宿だったが、新しい建物にはビックリ！ 綺麗なホテルに生まれ変わって唖然としてしまった。

時刻は12時、松崎の伊豆の長八美術館にあるレストランで食事。親の情報によると、シーフードカレーが美味しい。

早速シーフードカレーを頼み、食す。辛すぎず甘すぎず、なかなかの味である。

ここでも、我が子はこの日3個目のアイス注文。松崎名産の桜の葉をまぶした、桜の葉アイスである。

松崎から、伊豆最南端の石廊崎へ。途中、ハプニングが！

今までハイテンションだった我が子が、急におとなしくなった。てっきり眠いものかと思っていたら、突然嘔吐したのだ。

どうも、寝不足がゆえの車酔いの模様。吐いたあとはスッキリしたようで、また元のテンションに戻った。

13時、石廊崎に到着。ここから突端まで10分ほどの山歩きとなる。

我が子は、岬の下にある漁港で猫を発見。「に

「やーにゃ、にゃーにゃ」と猫を追いかけるが、猫は我が子の姿を見ると逃げてしまう。

大人の足だと10分ほどの道のりが、2歳児と一緒にだとその倍に。20分ほどかけて、岬の先端にある石室神社でお参りし、記念撮影する。

14時、石廊崎を出発し、来た道で松崎に戻る。「マーガレットライン」と名付けられたこの道は、野猿の出没地である。

以前1人でここを通ったときには、道のど真ん中に猿が居座っていたことが。しかし、今回は猿そのものを目撃することはなかった。

15時に松崎に到着。早速宿にチェックインする。

全面改装した宿には、以前にはなかったエレベーターが。前は4階までひたすら階段を上っていたが、エレベーターで快適な上り下りができるのだ。

部屋に着くと、海側の眺望が美しい。駿河湾に沈む夕日も見ることができるという。



しかしながら、晴天だったにもかかわらず、部屋から駿河湾に沈む夕日を見れなかった。というのも、ちょうど以下に述べる大浴場の入浴直後が日の入りの時間だったらしい。

大浴場は最上階にあり、露天風呂も併設されている。しかし、この日が強風でとんでもないことになっていたのだ。

あまりの風で水面が波立っており、湯温もすっかりさめてしまっていた。また、入浴しても強風のおかげで息ができないのだ。

正直、こんな状況では1分と持たずに出てしまう。いろいろな人が「挑戦」したものの、みんなすぐに退散するのである。

温泉につかったあと、我が子はこの日4つ目のアイス。おいしい夕飯の前に、なぜかアイスを食べるのだ。

そして待望の夕食。18時に食堂に集合し、伊

勢エビの刺身とアワビの踊り焼きの登場である。

ここでもハプニングが発生！ 踊り焼きにされたアワビが、最後の抵抗を見せたのだ。

「プシュー」との声を上げ、勢いよく網から逃げ出した。床に落ちてしまったので、新しいアワビと交換してもらおう。

それはさておき、アワビの踊り焼きも、伊勢エビの刺身も最高。めったに味わえないものに、舌鼓を打つ。

また、この日は節分ということもあり、豆と太巻きも登場。なかなか粋な計らいなのだ。

最後は、刺身にした伊勢エビの頭でだしを取ったみそ汁。こんなにうまいものを食して、つくづく日本人として生まれてよかったと思う瞬間でもある。

この日は早朝4時起きだったこともあり、21時には寝てしまった。翌日の様子は、[こちら](#)へ続く。

[\[トップページ\]](#)



2007年2月18日掲載

親子三代伊豆紀行 / 下田編

「親子三代伊豆紀行」をお送りしている今月の「つれづれWEB」だが、今回は最終回。[1回目](#)、[2回目](#)はそれぞれからどうぞ。

前日と同様、早朝に目覚めたので朝風呂へ。朝風呂に入る人は多く、前日の夕方と同じくらいの人がいた。

それでも、前日と同様に風が強いため、露天風呂に行く人はいない。「風さえなければ」と思った人が何人もいそうだ。

朝食はバイキング。食後ののち、宿でおみやげを買う。その間、我が息子はこの旅で5個目、この日初めてのアイスを食べる。

我が子にしてみれば、旅行 = アイスという公式ができていそうだ。そのくらい、今回の旅でアイスを食べている。

9時を過ぎ、宿を出発。婆娑羅（ばさら）峠を通り、下田へ向かう。

下田に着くと駅前に車を止め、下田ロープウェイに乗る。行き着く先は、寝姿山である。

ここからの眺めは最高。下田港や下田市街が一望できるのだ。



また、山上には愛染堂がありここでもお参り。ほかにも、下田に100年来の念願だった

鉄道を通した実業家をたたえた記念碑もある。

山の上を1周し、山上にあるロープウェイの駅で、休憩がてら伊豆名産のところてんを食べる。ところてんは久しぶりだが、本場のところてんは歯ごたえがあつてうまい。

ここでも、我が子はアイスをねだっていたが、さすがにこのときは何とかねじ伏せた。何しろ、ソフトクリームの看板を見ただけで「アイス、アイス」と反応してしまうのだ。

山を下り、駅にある店で干物や今話題の黒はんぺん、塩辛などを購入。時間も時間なので、昼食を目指して下田をあとにする。

下田市街から下田港、須崎御用邸を通り、爪木崎に到着。ちょうど12時に着いた。



ここでは、テレビでも取り上げられた漁師汁やサンマ寿司を食す。漁師汁とは、エビ

やカニなどの魚介に野菜の入った味噌仕立ての汁である。

だしが効いていて、野菜にも味がしみていて柔らかい。人参や大根が好きな我が子は、親からおねだりして根菜を食べていた。

食後、付近を散策。日曜ということもあり、青空市も立っていた。

また、爪木崎は水仙が自生しており、ちょうど見ごろに。花壇にも水仙が植えられ、甘いにおいが漂っていた。

一方の我が子は、石ころを持って走っていたが、海岸にあったロープにつまずき転倒。その際、あとになってわかったが小指に血豆を作ってしまったのだ。

「あとで」というのは、実は転んだ直後は痛がっていなかった。帰る途中で指を気にして、ようやく発覚したのだ。

そんな我が子は、ここでもアイスをおねだり。孫にはめっぽう弱い私の親は、この旅行で6個目のアイスを買っていた。

13時となり、爪木崎を出発。国道135号線、大室山、天城高原から伊豆スカイラインを経由し、十国峠、箱根ターンバイクと海沿いの渋滞を回避する。

その後、小田原厚木道路、東名高速を通り、実家近くのうどん屋で夕食。そして、19時に自宅に到着、今回の旅行は終わった。

今回は、何から何まですべて親任せ。運転から宿代まで、すべて負担してくれた。

次は恩返ししたいところであるが、実は孫の笑顔が恩返しだとか？

[\[トップページ\]](#)